


シンガポール共和国		首都	なし（都市国家）
 <p>赤が全ての国民と人類の平等、白は純粋性、5つの白い星は自由・平和・進歩・平等・公正を表し、三日月は5つの星が示す理想に向かって進むことを意味している。</p> <p>独立：1965/8/9 マレーシアより 国連加盟：1965/9/21 政体：共和制</p>	国の概要	国土	面積 697 km <sup>2</sup> （東京 23 区とほぼ同じ） マレー半島南端部に浮かぶ島国で、周辺の小島も含む。本島は東西 42km、南北 23km で、平均海拔高度は 32m と低い丘陵性の地形である。半島とは幅 1 km ほどのジョホール水道で隔離されている。
		人口	448 万人
		言語	マレー語（国語）、英語（公用語）、中国語（公用語）、タミール語（公用語）
		通貨	シンガポール・ドル
		気候	熱帯海洋性で、年間を通して高温多湿である。モンスーン地帯にあるため年中微風があり、朝夕は凌ぎやすい。季節は明瞭でないが、北東モンスーンの卓越する 11 月～3 月に降雨が多い。南西モンスーンの卓越する 5 月～9 月は天候が荒れることがある。年降水量は 2753mm ほどで、スコール性の降り方をすることが特色である。
		民族	中国系 75.2%、マレー系 13.6%、インド系 8.8%
		宗教	仏教、イスラム教、キリスト教、ヒンズー教、シーク教、道教
教育制度の概要	学校体系	・保育所・幼稚園（3～5 歳、概ね 3 年間）、小学校（6～12 歳、6 年間）、中学校（13～16 歳、4 年間）、大学進学課程（17～18 歳、2 年間）、ポリテクニク（3 年制の専門学校）、技能研修所（17～19 歳、3 年間）、大学（18～22 歳）となっている。	
	義務教育	・小学校 6 年間で義務教育である。しかし、中学校までの 10 年間の教育費無料を保証している。99%以上が 10 年間の教育を受けている。 ・20 校の障害児のための特別支援教育学校がある。11 の福祉団体が政府から補助金を受けて運営している。	
	日本と比較した教育課程上の特徴	・小学校から各段階で生徒を能力別に選別していくための試験がある。まず、4 年生の終わりに学校が独自に定めた基準に基づいてテストが行われ、オリエンテーション段階（初等教育 5～6 年生）のための振り分けが行われる。その後、初	

	<p>等学校卒業試験（PSLE）、中等学校卒業時のシンガポール・ケンブリッジ「普通」教育認定試験（GCE-O）、ジュニア・カレッジ等卒業時のシンガポール・ケンブリッジ「上級」教育認定試験（GCE-A）が行われ、これらの成績によって進路が決められるという「徹底した能力主義」が最大の特徴である。</p> <p>・授業は公用語の一つである英語でなされるが、他民族国家であることから、同時にそれぞれの民族の母語を初等学校の1年生から学ばせる「2言語主義」や初等学校のカリキュラムにおいて語学・数学・自然科学など実践的な学問を重視する（1～4年生の授業は語学と数学で約80%を占める）一方で、教養的な側面をもつ人文科学等をあまり重んじていないなど、「実学重視」の傾向が見られる。</p>
義務教育後の教育	<p>・大学は国内に3校あり、進学率は約23.5%である。</p>
就学前教育	<p>・2～4歳児対象の保育園、5～6歳児対象の幼稚園があるがいずれも義務ではない。</p> <p>・授業は英語と母国語（中国語、マレー語、タミール語）の2カ国語にて行われる。言語の他には算数を学習する。</p>
その他	<p>・教育の目的を「子どもが生活していく上で必要となる技能を習得させるとともに、子どもが責任ある大人、忠誠心ある市民、勤勉な個人となるように、健全な道德価値観を教え込むことにある」とし、「読み書き」「計算能力」「2言語主義」「体育」「道德教育」を5つの柱としている。</p> <p>・男性で18歳以上の全ての健康な国民及び永住権保有者は2年のナショナルサービス、いわゆる兵役義務に服し、国軍、警察あるいは民間防衛隊のいずれかで勤務することになっている。このため、男子のGCE-Aレベル試験合格者には、ナショナル・サービスを終えてから大学に入学する者が多い。</p> <p>・イスラム学校、日本人学校、インターナショナルスクールがある。</p>
休業期間	<p>・年間200日の登校が定められている。</p> <p>・学校年度は1月初旬～11月中旬で、4期に分かれている。1期は1月2日～3月上旬、2期は3月下旬～5月下旬、3期は6月下旬～9月上旬、4期は9月中旬～11月中旬であり、それぞれの期間の間に、短期、長期の休みがある。</p>

教育内容の差異	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初等学校 1～4 年生では、語学と数学の基礎の習得が目標とされ、授業時間の 60%が英語（33%）と母語（27%）に、また、20%が数学に当てられている。残りの 20%は、道徳教育、音楽、図画工作、保健、体育に当てられている。</li> </ul>
学校行事の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の通常の授業とは別に、子どもたちは課外活動（CCAs）に参加している。課外活動は、子どもたちに運動、自己訓練、チームワーク、自信をつける機会を与えるものである。各々の子どもの精神的、身体的成長はここで培われていく。</li> <li>・課外活動には様々なものがあり、子どもたちはスポーツや社会活動の中から選択することができる。スポーツ活動には、陸上、バスケットボール、テニスなどがあり、社会活動には赤十字活動や警察体験活動などがある。また、民族舞踊、演劇、写真、コンピュータや園芸などの文化活動の中から選択することもできる。</li> <li>・課外活動は初等学校 4 年生以上を対象としているが、参加は任意である。中等学校では、一つ以上の課外活動への参加が必須となっている。</li> <li>・毎年、地域や国レベルの様々な課外活動イベントを実施し、学校間で競争している。スポーツイベントには、インタースクール・クロスカントリー・チャンピオンシップ、ナショナル・トラック&amp;フィールド・スイミング・チャンピオンシップがある。シンガポール・ユース・フェスティバルが毎年開催され、演劇や合唱、美術や工作の展示、社会活動イベント、スポーツイベントが行われる。</li> </ul>
給食	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給食のシステムはないが、各学校内にキャンティーンと呼ばれる食堂があり、食事だけでなく、軽食・おやつ・飲み物などを購入して飲食することができる。長い休み時間や授業開始前も飲食することができる。</li> <li>・食堂では、例えば 1 年生と 6 年生がペアになって、上級生が下級生をお世話と一緒に食べる。これを「バディシステム」という。食後は、みんなで歯磨きをする。</li> </ul>
チャイムや号令	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほとんど日本と変わらない。</li> <li>・教室に来客があると全員起立して挨拶する。</li> </ul>
教室における行動様式等の違い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほとんど日本と変わらない。</li> <li>・常夏の国であるため、ほとんどの生徒が飲み物を机上に出してあり、水分を補給することは認められている。</li> </ul>

	校則	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制服を着用する。</li> <li>・校則は、日本より厳格に運用され、教師や目上の人に対する礼儀も正しい。校則違反者には厳しく対応する。</li> <li>・いわゆる教育困難校では、学校と警察の連携も強い。問題行動が多発している学校には警察 OB を配置しているところもある。</li> </ul>
	保護者の授業参観、保護者会、PTA	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の PTA に相当する組織化されたものはないが、学校によっては PTC(Parents and Teachers Conference) がある。</li> <li>・学校運営には、保護者の協力が欠かせない。図書館運営、読み聞かせ、各種イベントに保護者がボランティアとして協力している。</li> <li>・保護者が授業のアシスタントをすることもある。児童の入学 3 ヶ月後に学校と保護者が話し合う機会を設け、その際にボランティアとして協力してくれる人を募集している。</li> <li>・保護者が子どもを入学させたい学校のボランティア活動を入学前に行って、その活動が評価されて、子どもが入学しやすくなる事例もあると聞いたことがある。</li> </ul>
	子どもの一日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿題を 3 時間し、さらに 2 時間家庭教師などについて勉強している。とにかくよく勉強する。</li> </ul>
生活習慣等	言葉の指導面の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語の学習では、「ツ」と「ス」と「チュ」の区別がつかない、「ウ」と「オ」を混同してしまう、「アイ」を「エー」と発音することがある。</li> </ul>
	宗教上の忌避事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの宗教が混在しているので、注意を要する。食事に招く際や寺院の訪問のときは事前に調べておく方がよい。</li> </ul>
	指による数え方 計算方法の違い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本と変わりはない。</li> </ul>
	食生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シンガポール料理は、中国料理をベースにマレーの影響をとるところに受けている。麺類や炒め物、カレーなどである。</li> <li>・日本より外食をする家庭が多く、ホーカーとよばれる食堂で安価な食事をすることができる。</li> <li>・マレー系とインド系の人手では手で食事をすることがある。</li> <li>・食べ物はすべて「ハラール」といって宗教的に定められた方法で作られている。</li> </ul>
	衣服住居の違い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高温多湿の環境であるが、日本とあまり変わらない。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国民の 8 割は、HDB とよばれる高層アパートに住んでいる。</li> </ul>
交通規則の違い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通規則や車、歩行者も日本と同じである。</li> <li>・バスや電車に乗っているとき、お菓子を食べたり、ジュースを飲んだりすると罰金が科せられる。</li> <li>・横断歩道以外の場所で道を渡ると罰金をとられる。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国系、マレー系、インド系など様々な人種の人々が住んでいて、独自の暦に基づく正月を祝うため、お正月が 4 回ある。</li> <li>・日本のアニメや漫画などに興味をもっている生徒も多く、日本に好印象をもっている。</li> <li>・「ゼロポイント」という、ゴムを使ってなわをつくる遊びがある。</li> <li>・じゃんけんは、「シザーズ ペイパー ストーン」といい、日本と同じように石（ストーン）とはさみ（シザーズ）と紙（ペイパー）で勝負する。石ははさみに勝って、はさみは紙に勝って、紙は石に勝つ。</li> </ul>

<参考資料>

- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・諸外国の学校情報・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・世界の学校を見てみよう！（キッズ外務省）・・・・・・・・外務省
- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス
- ・ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・・・・・・・・・平凡社
- ・シンガポールと教育制度・・・・・・・・・・・・・・・・CLAIR
- ・世界の国・地域の紹介・・・・・・・・・・・・・・・・SIRA キッズ
- ・おもしろジャンケン・・・・・・・・・・・・・・・・日本アセアンセンター
- ・シンガポール日本人学校（月刊誌「海外子女教育」）・・・・・・・・海外子女教育振興財団
- ・世界の郷土料理・・・・・・・・・・・・・・・・KDDI
- ・海外日本人学校勤務経験教員より